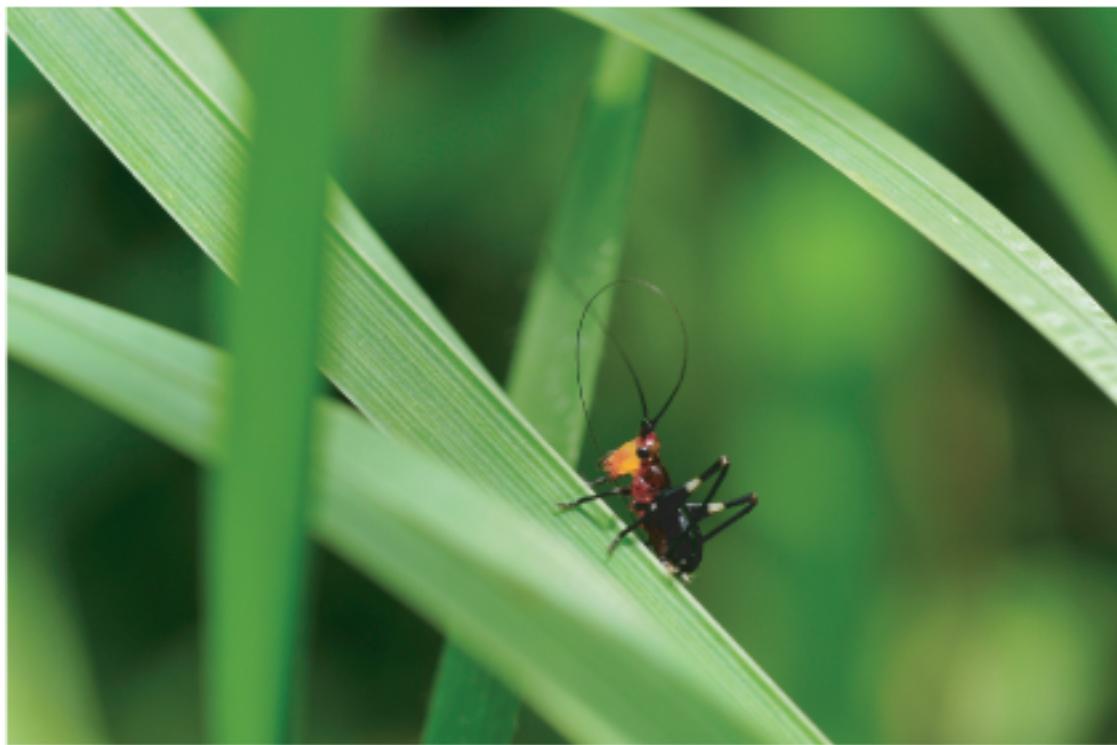


森のおくりもの8月



ササキリ（キリギリス科）



梅雨が明けて夏本番を迎えました。夏の生き物たちが目立つ一方で、夏の暑さを避けて、涼しくなるまで姿を見せない生き物がいます。そんな暮らし方を夏眠と呼んでいます。一方では、強い日差しが当たる面積を少しでも小さくしようと頑張っていたり、日陰に隠れている生き物も見られます。そんな姿を見ていると、生き物たちがより身近な存在に思えて、親しみがわいてきます。

【写真・文 早坂 徹】

7月にセンターの花壇にいた アゲハの仲間



7月の終わり頃、センター前の花壇にクロアゲハの幼虫が2匹、カラサアゲハの幼虫が1匹、モリモリとサンショウの葉を食べていました。今頃はきっとどこかで蛹になり、蝶となって羽ばたくのでしょう。キツネノカミソリやフシグロセンノウなどで吸蜜する姿を目にするころ、花壇で幼虫たちの姿が見られないか、探してみましょ。きっと何匹か見つかると思いますよ。その幼虫が成虫になり、またもう一度卵から蛹までのステージを見ることができます。

目玉模様の間に広く複雑な模様が頭の近くまで続いています。



黄色い線

茶褐色の線が背中で途切れない。



はじめは、鳥のフンのような色模様

大きな目玉模様があってかわいい。本当の眼はとても小さい単眼が6個ずつ左右に並んでいるだけ。いったい、どんなふうに見えるのでしょうか。色の違い（主に青や緑、UV）や形などは分かり、質感と合わせて蛹になるときに、何色にするかを判断しています。（緑か褐色）

幼虫たちを比べてみよう！



深緑色の線

白い靴下が特徴。



【カラサアゲハ】



【クロアゲハ】



【ナミアゲハ】

成虫は9月いっぱいまで見られるよ。

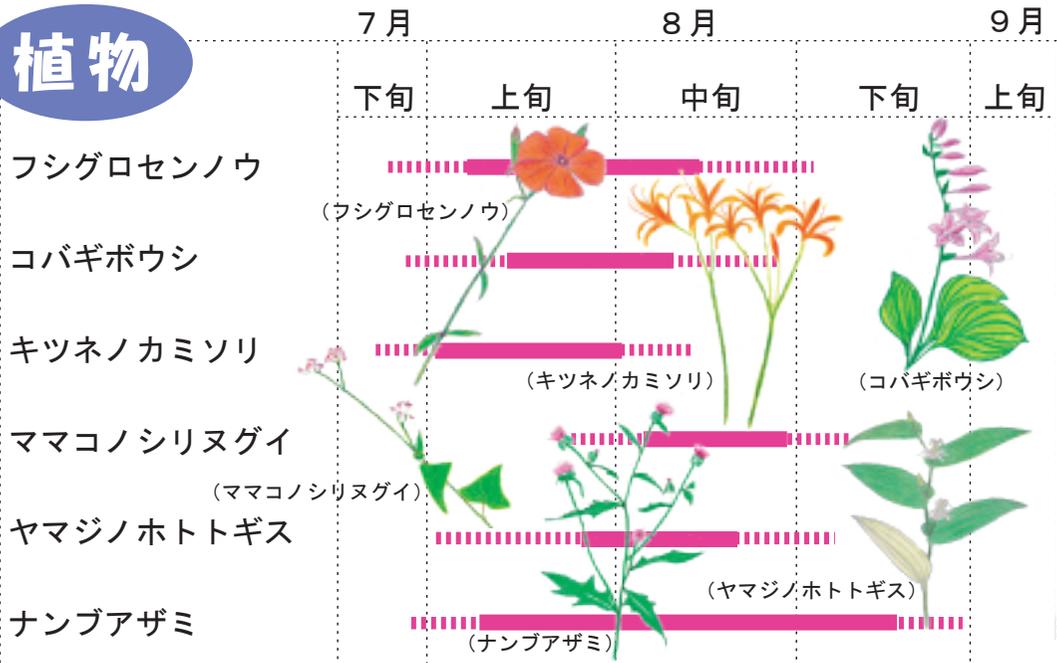
成虫の前脚が、食草を判断する味覚にあたりとされていますが、どういいうわけか、間違えて違う植物に産んでしまうのもいるようです。館長が見つけたネムノキに産み付けられていた卵は、ナミアゲハの幼虫がでてきましたよ。孵化した幼虫にネムノキとサンショウの葉をあげたところ、ネムノキは食べませんでした。お母さん、間違えないで！！

【レンジャー：黒川周子】

*アゲハは「翅をあげて」とまることから「あげるはね」でアゲハと言われます。

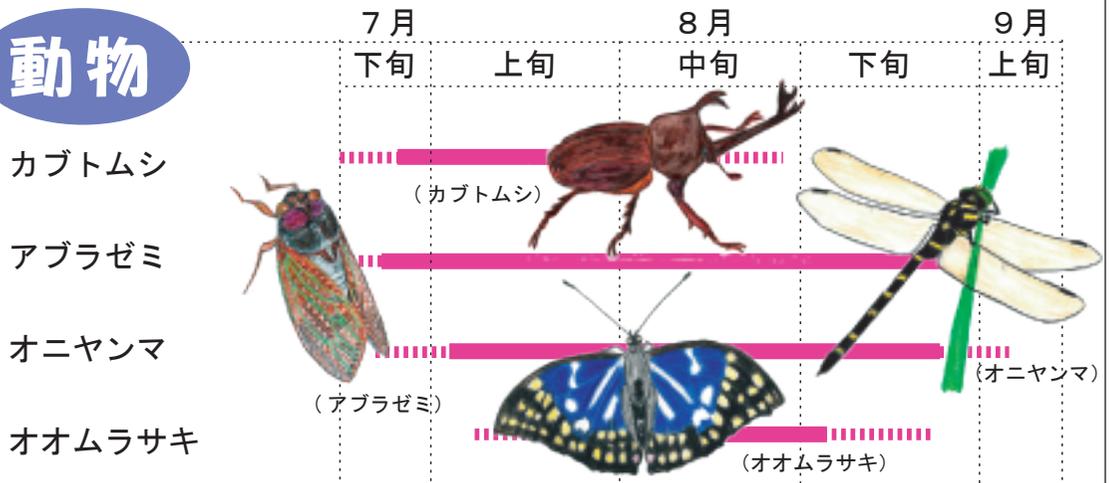
8月の生物ごよみ

植物



静かだった森も気づくとセミの声でにぎやかになってきました。6月から鳴いていたニイニイゼミとヒグラシに加え、7月17日にアブラゼミ、24日にミンミンゼミ、26日にツクツクボウシ、28日にエゾゼミと続々と鳴き始めています。8月に入ればコオロギやツユムシの仲間が加わりさらににぎやかになりそうです。植物ではキツネノカミソリが7月26日に開花が確認されました。お盆前後に咲くイメージがありましたが、ここ数年は7月後半に開花が確認されています。

動物



【レンジャー：齋 正宏】



レンジャーの森の雑記帳



夏は私にとって一番好きな季節のような気がします。それは遠い幼少期の楽しい記憶に繋がっているのかもしれませんが。夏休みになると親戚に呼ばれ風に揺らぐ青田の海に浮かぶ島のような家に毎年泊めてもらいました。地元の子どもたちに誘われて黒いカワトンボのいる美しい川で遊び、夕方になり暗くなりつつなる川で無数のトンボが飛んでいた幻想的な風景は今でも鮮明な記憶として残っています。その頃喘息でひ弱な私と、健康的に真っ黒に日焼けした彼らはあまりに対照的で、すべてがまぶしく輝いていました。抜けるような青い空も、圧倒的な質感を持って広がる白い夏の雲も、優しく笑う見知らぬ子どもたちも今になってしまえば夢のような気がします。太白山自然観察の森のトンボの沢でカワトンボを見かけると、セミの声とともに眩暈めまいのような感覚でたまにあの夏の日のことを思い出したりします。たぶん私の宝箱の中の記憶のひとつだからでしょう。夏の風物詩でもある仙台七夕まつりが終わると秋の気配が忍び足でやってきます。だから私は夏が近づくとうれしくなると同時に、夏の終焉はかなを予期してしまい儚させつなと刹那を感じる季節でもあるのです。太白山自然観察の森にも大勢の幼い子や小学生が訪れますが、子どもたちが大きくなって、そしてもしかすると自分たちの子どもを連れて、この森に再び来る時まで、カワトンボや自然がそのままの姿で残ってくれるのを願っています。いつか子どもたちの大切な宝箱にひょっとすると入れてもらえるかもしれません。

【レンジャー：阿部正明】





「杜の都・仙台」のシンボルとして

戦前の「杜の都」を継承するための立役者

欒

定禅寺通りのケヤキ並木は、「杜の都・仙台」のシンボルとして全国的に知られています。

まず「杜の都」と呼ばれる由縁についてですが、古くは江戸時代、

仙台城下の武家屋敷には、政宗公が奨励し沢山の樹木が植えられ、緑豊かな景観が形成されました。明治時代になり、武家屋敷の一部は官僚等の住居や学校、公園になりましたが、多くは姿を変えずに残り、この頃から「森の都」と言われるようになりました。（その後「森」が「杜」と表記されるようになりました。）

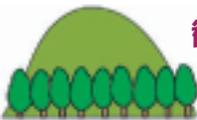
昭和20年の仙台空襲では、多くの「杜の都」の風景が失われましたが、戦災復興の道路計画に「杜の都」復活のための街路樹の植樹が盛り込まれました。

ケヤキが選ばれた理由は、仙台の気候風土に合い、広くなった道路に大きく育つ木ということだったそうです。こうしてケヤキは今立派に大きく育ち、仙台市を象徴する大切な木となりました。



定禅寺通りのケヤキ並木

- ・ニレ科ケヤキ属
- ・北海道を除く地域に自生
- ・落葉高木
- ・雌雄同株
- ・葉は単葉で2列に互生
- ・材は木目が美しく硬いため、建築材や漆器の木材、額縁や楽器などに利用



観察の森の

ケヤキ

今昔物語



欒ものしりクイズ



樹高：25m
幹周：2m

観察センター玄関前の広場に、センター開設時に植えられたケヤキの木があります。25年前は幹周20cmぐらいの細い木でしたが、今では堂々たるシンボルツリーになりました。幹が枝分かれしたところに、赤ちゃんケヤキを見つけました。かわいいですよ♪

※観察の森にはセンター前のほかに、芝生広場の南端、トンボの沢にもケヤキがあります。

- Q1 ケヤキを県の木に指定している県はどこ
ヒント：福島県、埼玉県と
もうひとつ
- Q2 日本一大きいケヤキはどこにある
ヒント：サクランボで有名
- Q3 ケヤキが使われている有名な建物はどっち
・奈良の法隆寺の五重塔
・京都清水寺の舞台
【答え】は欄外下



現在のケヤキ



開設時のケヤキ



東根の大ケヤキ

樹高：28m
幹周：16m

【レンジャー：遠藤 和子】



のイベント&お知らせ

◆『キッズ昆虫たんけん隊』8月13日(土) 10:00～12:00

・昆虫を捕まえ、スケッチして、じっくり観察をします。

【定員】15名(小学生)

【料金】無料

【持ち物】長袖長ズボン・雨具(カッパ)・帽子・虫よけ・飲み物など

【申込み】8月6日(土)午前9時から電話で受付〔先着〕

◆『虫のいどころ』8月20日(土) 10:00～11:30

・昆虫の専門家と共に、真夏の自然観察の森で虫のいどころを探ります。

【定員】20名(どなたでも)

【料金】無料

【持ち物】長袖長ズボン・雨具(カッパ)・帽子・虫よけ・飲み物など

【申込み】8月7日(日)午前9時から電話で受付〔先着〕

◆『虫と遊ぼうin七北田』8月20日(土) 13:00～16:00

・昆虫を捕まえ、蚊帳の中に放し遊べます。 ※雨天順延

【会場】泉区七北田公園(泉区民祭り会場)

◆『夏休み! 生き物相談室』

・自由研究、生き物の名前調べなど
レンジャーに相談してみませんか?

【期間】8月28日(日)まで

【対象】小・中学生 ※事前に電話予約が必要です。



毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日!

8月の開催日は7日、14日、
21日、28日です。

開催時間: 10:00～11:30
13:30～15:00

◎28日の午前は、自然観察センター館長がご案内します
申し込み不要。時間までセンター前にお集まり下さい。



表紙の絵や
原稿を募集
しています。

里山や自然に関するものを
書いて(書いて)ね!
レンジャーからのプレゼント
があるよ!!



8月の休館日

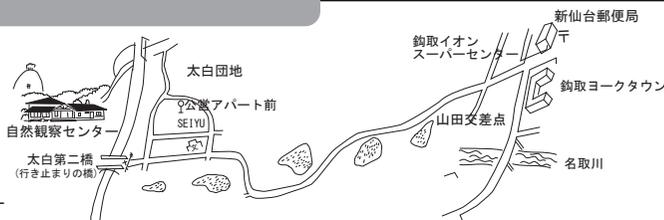
1日、8日、15日、
22日、29日

宮城交通バスの場合

仙台駅前バスプール7番 または 長町駅から
山田自由ヶ丘車庫 行きに乗る
公営アパート前 で下車、徒歩15分でセンター

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター



自然観察の森の最新情報、「森のおくりもの」
バックナンバーはWebでチェック!

2016年8月号(毎月1回5日発行)

発行:(公財)仙台市公園緑地協会

編集:仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

E-mail: taihakan_moushikomi@sendai-green-association.jp

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakan/index.html>